第８講
インドの古代史

【インダス文明】青銅器文明のインダス文明の都市遺跡は，(1)〔　　〕がインダス川(2)〔　　〕（(3)〔　　〕地方）にあり(4)〔　　〕が(5)〔　　〕の(6)〔　　〕地方にある。**整然とした都市計画と排水設備**，公衆浴場か特色。象形(しょうけい)文字の**インダス文字は未解読**で，前1800年頃から衰退，滅亡の原因には諸説ある。

【ヴェーダ時代】先住民で皮膚(ひふ)の黒い(7)〔　　〕の世界に，(8)〔　　〕（高貴なるの意＝白い皮膚）を自称する民族が，**前1500年頃**に(9)〔　　〕を越えパンジャーブ地方に侵入した。前1000年頃にはガンジス川中下流域に移動しはじめる。この時期，インドは(10)〔　　〕時代にはいり定住農耕の国家群が形成された。そのうちで**コーサラ国とマガダ国**が強大化。**前500年頃**にかけてのアーリア人の移動期をアーリア人の自然の威力崇拝，神々への讃歌からヴェーダ時代と呼ぶ。主要な聖典が『(11)〔　　〕』だ。『サーマ＝ヴェーダ』『ヤジュル＝ヴェーダ』『アタルヴァ＝ヴェーダ』で４ヴェーダ。この時期，アーリア人とドラヴィダ人との混血が進むが皮膚の「色」による差別(12)〔　　〕が形成された。この差別を合理的に説明する宗教が(13)〔　　〕で，その基底をなすのが**ヴェーダ（知識）**ということになる。

アーリア人が(14)〔　　〕階級をドラヴィダ人が(15)〔　　〕と不可触賤民(せんみん)を構成した。

バラモン教の祭式万能(さいしきばんのう)の形式主義を哲学的に批判したのが(16)〔　　〕で，宇宙の根本本質である梵(ぼん)（ブラフマン）と人間の根本本質である我（アートマン）が一如(いちにょ)（一致）すれば(17)〔　　〕から(18)〔　　〕できると考える。

仏教の開祖(19)〔　　〕はヴァルナを否定し**八正道(はっしょうどう)の実践による輪廻からの解脱**を説いた。(20)〔　　〕で悟(さと)りに至り，(21)〔　　〕で初説法(せっぽう)を行なった。(22)〔　　〕**階級**に支持された。

ジャイナ教の開祖は(23)〔　　〕（尊称はマハーヴィーラ）でヴァルナを否定し**不殺生(ふせっしょう)による輪廻からの解脱**を説き，(24)〔　　〕**階級**に支持された。

『(25)〔　　〕』・『(26)〔　　〕』の二大叙事詩の原型が成立した。これらは後にヒンドゥー教の聖典となるが，サンスクリット文学として完成するのは，後４世紀にはじまる(27)〔　　〕朝の頃である。

解答

（１）モエンジョ＝ダーロ　（２）下流　（３）シンド　（４）ハラッパー　（５）中流
（６）パンジャーブ　（７）ドラヴィダ人　（８）アーリア　（９）カイバル峠　(10) 鉄器
(11) リグ＝ヴェーダ　(12) ヴァルナ　(13) バラモン教
(14) バラモン，クシャトリア，ヴァイシャ　(15) シュードラ　(16) ウパニシャッド哲学
(17) 輪廻(りんね)　(18) 解脱(げだつ)　(19) ガウタマ＝シッダールタ　(20) ブッダガヤ
(21) サールナート　(22) クシャトリア　(23) ヴァルダマーナ　(24) ヴァイシャ
(25) マハーバーラタ　(26) ラーマーヤナ　(27) グプタ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【マウリヤ朝】**アレクサンドロス大王**がインドに侵入した時のマガダ国は**ナンダ朝**，その大王の武将**セレウコス**が侵入した時はマウリヤ朝の創始者(28)〔　　〕の時代であり，ギリシア人の侵入にたいしインドは初めてマウリヤ朝で統一した（**前317年頃**)。都は(29)〔　　〕（現パトナ）。

前３世紀のマウリヤ朝の(30)〔　　〕は(31)〔　　〕征服時の大量殺戮を悔い(32)〔　　〕（**仏の理法**）を各地の(33)〔　　〕に刻み統治した。(34)〔　　〕仏教を保護し第(35)〔　　〕回仏典結集をして，(36)〔　　〕に布教し，(37)〔　　〕に(38)〔　　〕を建てた。

マウリヤ朝は遊牧民サカ族の南下で衰退した。早くも(39)〔　　〕の観念はインド人により発見されていたが確立するのは６～７世紀である。

【サータヴァーハナ朝】サンスクリット語で「南」を意味する(40)〔　　〕**高原**に(41)〔　　〕系タミル族の(42)〔　　〕朝が成立した。ローマ帝国と後漢の間に位置し胡椒などを輸出する(43)〔　　〕貿易の結節点となった。(44)〔　　〕人商人の活動は『(45)〔　　〕』に詳しい。後にヒンドゥー教徒の生活規範になる『(46)〔　　〕』の原型ができた。

【クシャーナ朝】同時期つまり１世紀頃，(47)〔　　〕から独立した中央アジアの(48)〔　　〕がカイバル峠を越えてすぐの(49)〔　　〕（現パキスタンの**ペシャワール**）にクシャーナ朝を開いた。(50)〔　　〕の時だ。彼は(51)〔　　〕仏教を採用した。大乗理論は(52)〔　　〕によるもので，**菩薩像に手を合わせれば出家し修行しなくても輪廻から解脱できるという，許容範囲の広い「大きな乗り物」**というわけだ。(53)〔　　〕とその弟が４世紀に確立した(54)〔　　〕（すべての人々を救うことで自分も救済されたいとする行者）信仰が大乗仏教の基本。そして上座部を「(55)〔　　〕」として蔑視した。

そのようなわけで，(56)〔　　〕地方で仏像製作が始まった。仏像の相貌はカールした頭髪に高い鼻，ギリシア風の衣装つまり(57)〔　　〕的。それもそのはずインダス川上流はアレクサンドロス大王帝国→(58)〔　　〕朝シリア→(59)〔　　〕王国とギリシア人支配が続いた直後だから。(60)〔　　〕王国→トハラ族→(61)〔　　〕と続き，大月氏国から自立したのが(62)〔　　〕だ。日本は(63)〔　　〕の国。だからガンダーラ地方とは縁が深い。

クシャーナ朝は(64)〔　　〕の(65)〔　　〕に攻撃された。

解答

(28) チャンドラグプタ　(29) パータリプトラ　(30) アショーカ王　(31) カリンガ
(32) ダルマ　(33) 石柱碑・磨崖碑　(34) 上座部（小乗）　(35) 3
(36) セイロン島（現スリランカ）　(37) サーンチー　(38) ストゥーパ（仏塔）
(39) ゼロ　(40) デカン　(41) ドラヴィダ　(42) サータヴァーハナ（アーンドラ）
(43) 季節風　(44) ギリシア　(45) エリュトゥラー海案内記　(46) マヌ法典
(47) 大月氏　(48) クシャーナ族　(49) プルシャプラ　(50) カニシカ王　(51) 大乗
(52) ナーガールジュナ（竜樹）　(53) アサンガ　(54) 菩薩　(55) 小乗
(56) ガンダーラ　(57) ヘレニズム　(58) セレウコス　(59) バクトリア
(60) バクトリア　(61) 大月氏国　(62) クシャーナ族　(63) 大乗仏教
(64) ササン朝ペルシア　(65) シャープール１世

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第８講　テスト①

1　アーリア人がカイバル峠を越え侵入した地域は。

①　カシミール地方

②　パンジャーブ地方

③　ベンガル地方

④　バクトリア地方

2　ジャイナ教の開祖は。

①　ガウタマ＝シッダールタ

②　ヴァルダマーナ

③　ウパニシャッド

④　ナーガールジュナ

3　大乗理論を大成させたのは。

①　ガウタマ＝シッダールタ

②　ヴァルダマーナ

③　ウパニシャッド

④　ナーガールジュナ

4　マウリヤ朝の都は。

①　プルシャプラ

②　パータリプトラ

③　ブッダガヤ

④　バンガロール

5　クシャーナ朝の都は。

①　プルシャプラ

②　パータリプトラ

③　ブッダガヤ

④　バンガロール

6　セイロン島に上座部仏教を伝えたのはどの君主の時代が最初か。

①　アショーカ王

②　カニシカ王

③　アサンガ

④　チャンドラグプタ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

7　ガンダーラの仏像の容貌には以下のどの文化圏の特徴が顕著に見られるか。

①　中国

②　ヘレニズム

③　日本

④　エジプト

8　世襲の職業・身分として閉鎖的に固定したものは。

①　ラージャン

②　クリシュナ

③　マトゥラー

④　ジャーティー

9　マウリヤ朝から独立を維持していたインド最南端の王朝は。

①　チョーラ朝

②　パーンディヤ朝

③　サータヴァーハナ朝

④　パッラヴァ朝

10　インドでインダス文字に次ぐ古い文字は。

①　パーリ文字

②　バーミアン文字

③　ブラフミー文字

④　ヒンドゥー文字

11　輪廻から解脱する方法ヨーガのうちの１つの方法は。

①　スーフィー

②　バクティ

③　カバラ

④　シャーマン

12　スリランカから東南アジアに普及した南伝仏教の教典は何語か。

①　ヒンディー語

②　サンスクリット語

③　パーリ語

④　タミル語

第８講　テスト①解答

1　②	2　②	3　④	4　②	5　①	6　①
7　②	8　④	9　②	10　③	11　②	12　③

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【グプタ朝】(1)〔　　〕年にはじまる(2)〔　　〕朝マガダ国は，アーリア的なものサンスクリット的なものが完成した王朝，言い替えるなら**ヒンドゥーが完成した王朝**。インドのシェークスピアと言われる(3)〔　　〕の戯曲(ぎきょく)『(4)〔　　〕』がその代表格。

マガダ国だから都は(5)〔　　〕。(6)〔　　〕が興し，(7)〔　　〕（超日王）が最盛期で，東晋(とうしん)の僧，(8)〔　　〕（往路が陸路で帰路が海路，**『仏国記(ぶっこくき)』**）と会見した。ヒンドゥー教徒の生活規範『(9)〔　　〕』が完成，(10)〔　　〕（破壊神）(11)〔　　〕（維持神）**ブラフマー**（創造神）の３神が出揃(そろ)う。シヴァはアーリア人の雷（インドラ）とドラヴィダ人の男根崇拝，ブラフマーはウパニシャッド哲学のブラフマンに由来する。ヒンドゥーは教祖も統一の教義もない混合宗教だが，かといって多神教ではない。ただ１人の神について考える宗教だ。そのヒンドゥー教徒が皆等しく畏敬(いけい)の念を抱くもの，それが(12)〔　　〕の水。(13)〔　　〕し川の水に抱かれたい，と熱望する。代表的な沐浴場が(14)〔　　〕。ヒンドゥーが民間信仰になると，その一つの構成要素である仏教は教義研究の対象となる。グプタ朝期に(15)〔　　〕がつくられた。デカン高原には，(16)〔　　〕と(17)〔　　〕の石窟(せっくつ)がある。ヘレニズムの影響のない**純インド・グプタ様式**だ。グプタ朝は(18)〔　　〕に滅ぼされた。

【ヴァルダナ朝】７世紀には，(19)〔　　〕が(20)〔　　〕を開いた。都は(21)〔　　〕。(22)〔　　〕の僧の(23)〔　　〕は往復(24)〔　　〕路で訪印しハルシャ王と会見し，ナーランダー僧院に学び『(25)〔　　〕』を著した。唐の(26)〔　　〕に敬愛され，持ち帰った仏典は，(27)〔　　〕の(28)〔　　〕に保管された。仏教はヒンドゥーと混合して**密教化**する。仏教はベンガル地方の(29)〔　　〕によって12世紀頃まで保護されたが，13世紀の(30)〔　　〕の侵入で教団としてはインドから姿を消した。ハルシャ王の死後インドは分裂状態になる。分裂期をヒンドゥーの王子たちを意味する(31)〔　　〕時代と呼ぶ。この分裂時代の８世紀に(32)〔　　〕の僧の(33)〔　　〕は往復(34)〔　　〕路で訪印しナーランダー僧院に学び，途中，(35)〔　　〕**王国**の**スマトラ島**(36)〔　　〕に立ち寄り当地で『(37)〔　　〕』を著した。

解答

（１）320　（２）グプタ　（３）カーリダーサ　（４）シャクンタラー
（５）パータリプトラ　（６）チャンドラグプタ１世　（７）チャンドラグプタ２世
（８）法顕(ほっけん)　（９）マヌ法典　（10）シヴァ　（11）ヴィシュヌ　（12）ガンジス川
（13）沐浴(もくよく)　（14）ヴァラナシ　（15）ナーランダー僧院（学院）　（16）アジャンター
（17）エローラ　（18）エフタル　（19）ハルシャ＝ヴァルダナ　（20）ヴァルダナ朝
（21）カナウジ　（22）唐　（23）玄奘(げんじょう)　（24）陸　（25）大唐西域記(だいとうさいいきき)　（26）太宗(たいそう)
（27）長安　（28）大雁塔(だいがんとう)　（29）パーラ朝　（30）イスラーム　（31）ラージプート
（32）唐　（33）義浄(ぎじょう)　（34）海　（35）シュリーヴィジャヤ　（36）パレンバン
（37）南海寄帰内法伝(なんかいききないほうでん)

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第８講　テスト②

1　戯曲『シャクンタラー』の作者は。
①　マハーヴィーラ
②　アサンガ
③　ラーマクリシュナ
④　カーリダーサ

2　ヒンドゥー教徒の生活規範は。
①　マヌ法典
②　アヴェスター
③　タルムード
④　ミシュナ

3　ハルシャ＝ヴァルダナと会見したのは。
①　法顕
②　玄奘
③　義浄
④　達磨

4　ハルシャ＝ヴァルダナを指す呼称は。
①　戒日王
②　超日王
③　無著王
④　世親王

5　グプタ朝を滅ぼしたのは。
①　サカ
②　トハラ
③　ウイグル
④　エフタル

6　デリー南方の遺跡でグプタ朝期にヒンドゥー化した純インド風の仏像があるのは。
①　アジャンター
②　エローラ
③　カジュラホ
④　マトゥラー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第８講　テスト②解答

1　④　　2　①　　3　②　　4　①　　5　④　　6　④

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。